

Title: 「アジアの空に水母が揺れる」



羽立 孝
1981年鹿児島生まれ。2005年から水問題を撮り始め、この海外FWでも水の環境問題を続けて撮り進めて行く。

● 最近のエントリー

☑ 半年分のX線
(2006.11.22)

● アーカイブ

☑ February 2007
☑ January 2007
☑ December 2006
☑ November 2006
☑ October 2006
☑ September 2006
☑ August 2006
☑ July 2006
☑ June 2006
☑ May 2006
☑ April 2006
☑ March 2006

● 投稿カレンダー

● カテゴリー一覧

☑ Bangkok
☑ Hanoi
☑ Ho-Chi-Minh
☑ INDIA
☑ Malaysia
☑ SiemReap
☑ Taiwan
☑ 石垣島

● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE



アジアの空に水母が揺れる > November 2006 アーカイブ

06.11.22

半年分のX線

[Tweet](#)

[Check](#)

8月のマレーシアでのスクーリングの後、私はフリープランでベトナムに向かった。

その時の撮影ネガは日本に帰った10月、新しい自宅で現像を行った。

しかしこの仕上がりをみると今までに見たことも無いかぶりがフィルムに出ていた。

暗室・現像・カットホルダー・カメラの蛇腹・X線等々いろいろな可能性を考え、ひとまずベトナムでカットホルダーに入れてそのままにしていた未撮のフィルムをそのまま現像してみた。

結果は「黒」、同様にかぶっていた。これでカメラが原因の可能性は無くなった。

そこでもう一度新しいフィルムを入れ直し、しばらく放置した後に再現像してみることにした。

そして今日、その現像を行った。

その結果、かぶったネガは1枚もなかった。

半年の撮影でぼろぼろになっていたダークバック、結局これが原因だった。ダークバックを頭からかぶって光が漏れているところに表裏ともにパーマセルを貼ったり、フィルムを詰める際に部屋を暗くもしたが不十分だったのだろう。真新しいダークバックには敵わなかった。

今日の現像をするまでは様々な国で通した50回を由に超えるX線検査のせいで感光したのかもなと考えていた。

アメリカのようなX線が強い国だとまた状況が変わってくるだろうが、フィルムが意外とX線に耐えるものなのだなと思った。ちなみにこのフィルムは感度100です。

(注)もちろんの事ですが、X線は極力当たりに越したことはないです。「運が良かった」くらいに考えておかないと後で後悔することになりかねない、と思います。

カテゴリ:

post by 羽立 孝 | 日時: 2006.11.22 | [パーマリンク](#) | [コメント \(2\)](#)